

青森県五所川原市梅田方言の副助詞

前田 理佳子

I. はじめに

1. 調査対象地： 青森県五所川原市は、県庁所在地青森市から東へ 46km、かつての藩都弘前市から北へ 38km の地点に位置し、西津軽郡・北津軽郡と合わせて「西北五」と呼ばれる地域の中心都市とされる。梅田は、旧市街から南へ 5 km ほどの、平野部に広がる農業地域で、北津軽郡鶴田町に接している。世帯数 331、人口 992 人であり、住居近くに水田・りんご園・菜園を持つ小規模農家が多い。
2. 調査年月日： ① 1998 年 8 月 26 日 午前 8 時 30 分～午前 11 時 50 分
② 1998 年 8 月 22 日 午後 8 時～午後 11 時 30 分
3. 話者： ① 前田一 1936(昭和 11)年 2 月 16 日生(62 歳)
② 前田節子 1940(昭和 15)年 7 月 25 日生(58 歳)
4. 調査者・調査場所 前田理佳子・話者宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他

- ・文節ごとに分かち書きをする。
- ・ガ行鼻濁音はカ・キ・ク・ケ・コと表記する。
- ・一音節分の長さをもたない特殊音節は「ン」「ッ」「ー」の各一字で表す。
- ・音相において高く現れている部分に傍線を付して簡略に示す。分かち書きした部分 2 つ以上に連なる傍線は前の音高がほぼそのまま保たれていることを表し、傍線が連なっていないものは、後部の分かち書きの部分で更に高い音相となっていることを表す。
- ・原則として話者①の回答を記すが、当該副助詞部分（副助詞を用いない表現が現れたものも含む）において異なるものがない場合、文頭に○と記す。異なるものがある場合、話者①の回答の後に話者②の回答を併記し、それぞれの文頭に①②と記す。話者①の調査において、誘導によっても当該副助詞に対応する意味内容をもつ回答が得られなかった例については、話者②の回答から記す。文頭に③を付したのも話者②の回答である。
- ・副助詞を用いない回答のうち、調査文の文構成・語彙と大きく異なるものについては、逐語的な共通語への言い換えまたは文法説明を付す。

II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

A 添加

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。 ①アメバイデ^ーネダ カジャモ^ーフイデキタ。(「カジャサエ」とは言わない) / ②アメバイデ^ーネダ

カンジャマン^デ ^フイ^デ キタ。(「カンジャサエ」とは言わない)

2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。 ○コドシ^ワ ヨノナガ^イシ^テ
コメ^バイ^デ ネ^ダ ムキ^モ イ^ダトイ^ダ。

B. 予想外の事実

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。 ○ショーガ^クセイ^デモ
カンタン^ニ ワープ^ロト^バ ツカ^ッテ^ラ。

4. (宝くじが) 当たると思っていなかっただけに嬉しい。 ①アダ^ルド^オモ^ッテ
ネ^ンデ^イダ^ハン^デ キ^ンビ^イ。〈ハン^デにプロミ^ネンス〉/②アダ^ル ハ^ズ
ネ^下 オモ^ッテ^ラハ^ンデ^ナン^ボ オモ^シレ^ガサ。/③アダ^ルド^ダバ
オモ^ワネ^ンデ^アツ^タハ^ンデ^ガ オモ^シレ。〈ハン^デは理由・原因を表す
接続助詞〉

C. 条件

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ①ヒマ^コ ア^レバ ジャ^ッコ^ツリ^ニバ^リ
イ^ッテ^ラ。(「ヒマサエ」とは言わない。「ヒマ^コ」の「コ」を特に高く言う) /
②ヒマ^アレ^バ ジャ^ッコ^ツニ イ^ッテ^ラ。(「ヒマサエ」とは言わない。
「ヒマ^マ」の「マ」を特に強く言う)

D. 例示

6. まあお茶でも飲んでください。 ○マ、チャ^ッコ^デモ ノ^ンデ^ケヘ。

7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。 ②ミヤ^ケサ コノ マ^ンジ^ユウ^ダノ
ド^ンダ^ベ。

8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 ②オモ^ワズ ト^ビア^ガッ^テ マ^ル ホ^ンド
ウ^レシ^フテ^アツ^タ。〈誘導〉/③オモ^ワズ ト^ビア^ガル^クレ^ウレ^シフ^テ
ア^ツタ。〈誘導〉

9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。 ○ナマ^デ ハ^ナシ
キ^ケデ^ラ下 オモ^ッテ^ネン^デ ア^ツタ。

10. なぐるやら蹴るやらの乱暴を働いた。 ○ヘ^ンガ シ^タリ フ^ンダ^リ シ^テ
タ^ンダ^ブツ^タシ^ケダ^モン^デ ネ。〈なぐったり踏んだりして、ただ叩いたの
ではない〉

11. 私になり相談してくれれば良かったのに。 ②オ^ラサ^デモ ソ^ーダ^ンコ^カゲ^デ
ケ^レバ イ^フテ^アツ^タズ^テア。

12. 野菜なんていくらでもできる。 ②ヤ^サイ^ダノ^ダバ^ナン^ボデ^モ デ^ギル。/
③ヤ^サイ^ダノ^ダッ^キヤ^ナン^ボデ^モ デ^ギル。

一対の語の例示

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。 ①ショ^ーユ^モ ミ^ソモ^ツク^ッテ
ア^ツタ^ダ。/②ショ^ーユ^ダノ^ミソ^ダノ^モ ツ^クッ^テ ア^ツタ^ダ。

択一

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。 ①ワデモ オドートデモ イダネ。/
②ワガ オドートガガ テズダイニ イギス。

例外でない

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだろう。 ①ソッチョーデモ
ソッキシカ ヤエネデ アッタダベ。/②ソッチョーダッテ ソスシカ シカダ
ネガッタダベサ。

列挙

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。 ○ハルニ ナッタッキヤ
メノハナコモ サグラモ イッカイニ サイダ。

同類の暗示

17. テレビもそろそろ買い替えよう。 ②テレビモ ソロソロ アダラシノ カルベ。
やわらげ

18. まあお茶でも飲んでください。 ○マ、チャッコデモ ノンデ ケヘ。

E. 包括

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。 ○ボンニダバ ワラハンドダノ マコダノ
クル。

F. 提題

20. ゲートボールだってできるよ。 ①ゲートボールモ デギルネ。/②ゲートボール
デモ スニ イネ。

話題にあげる

21. 何だい、いいことって。 ②チンダバ、イー ゴドズノ。

極端なもの提示

22. そんなこと子供にでもできるよ。 ○ソッタラダゴト ワラハンドデモ
デギルデバナ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。 ②クッテグクレダバ ナントガ シデー。
/③クー ゴトクレダバ ナントガ シデー。

24. 名前すらろくに覚えていない。 ○ナメコモ ログニ オベデネ。

25. 弁当代に千円もかかった。 ○ベントダイサ センエンモ カガッタ。

軽いものをあげる

26. これさえあればもう大丈夫だ。 ①コレ フトツ アレバ アド ナモ クー
ネ。(「コレサエ」とは言わない) <これ一つあればあとは全然心配がない>/
②コレ アレバ モー ダイジョブダ。(「コレ」の「レ」を特に高く言う)

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G. 分量・程度

27. 旅行で三日ほど家をあけた。 ②リョコーサ イッテ ミッカバリ イニ アゲタ。
28. 茶碗に半分くらいください。 ②チャワンニ ハンブンバリ ケヘ。
29. 子供でもわかるくらいのやさしい本だ。 ②ワラハンドデモ ワガルンタ
カタンダ ホンダ。〈子供でもわかるみたいなやさしい本だ〉/
③ワラハンドデモ ワガルク・レノ カタンダ ホンダ。
30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。 ①イッシューカンバリ イー
アゲルハンデ タノムデヤ。/②イッシューカンバシ ルスニ スルハンデ
タノムヨ。

H. 基準

31. 今年の寒さは去年ほどではない。 ①コドシノ サンビミコ キョネンサ
クラベレバ タイシタ ゴト ㊦。(「キョネンホドデワ」とは言わない)〈今
年の寒さは去年に比べると大したことがない〉/②コドシノ サンプミ
キョネンホドデワ ㊦。〈誘導〉

I. 理由

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになってしまった。 ①ワンチカ
キー ヌイダッキヤ クー デギデ マッタ。(「キー ヌイダバリニ」とは言わ
ない)〈ちょっと油断したら苦勞の種ができてしまった〉/
②チョット ユダン シタ タメニ トンデモ ㊦ ゴトニ ナッテ マッタ。
(「チョット」は他の場合には「チョット」とも言うが、「ちょっと油断したばか
りに」と言う場合には「チョット」と言う)

J. 「それにふさわしく」

33. 苦勞しただけあって人間ができています。 ①クー ミダハンデ ヒ下 デギデラ。
(「苦勞したから」なら「クー ミダハンデ」と言う)/②クー ミダ プンキ
ニンケン デギデラ。〈苦勞した分人間ができています〉

形式名詞的用法

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。 ②マイニジ
マコノ モリッコダノ ナンダリデ イソカシ。
「それこそ」
35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。 ②ソイゴフ
バケツ カッパニ シタンタ フリダ。
「～ばかりか」
36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。 ①オヤジモ カガモ スポーツズギダ。
〈カガモにプロミネンス〉/②チチバリデ ナダ ハハモ スポーツズギダ。
〈ハハモにプロミネンス〉

K. 今にも行われる

37. もう食べるばかりにしてある。 ②モ一 タベレバ イーバイニ シテラ。
動作の完了直後

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。 ②イマ シコドガラ モドッダバイダ。
基準

39. 駅までもうちょっとだ。 ○エギマデ モー ワンチカダ。

L. 等量の反復

40. 一人ずつ呼んで話をした。 ○ヒトリズズ ヨバッテ ハナシコ シタ。

M. 等量の配分

41. 一人に二個ずつみかんをやる。 ②ヒトリサ フタツズズ ミカン ケル。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定

42. 酒はたまにしか飲まない。 ①サゲコ メッタニ ノマネ。(「タマニシカ」とは言わない) / ②サケワ タマニデ ネバ ノマネ。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。 ○ケサ ネホイデ パンバリ クッテキタ。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。 ○ソロホン下
ベンキョーバリ シテレバ カラダ モダネヤ。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。《田植えのこと》
①オイデバリ ノゴッテラネ。〈うちでだけ残ってるよ〉 / ②オイフタ
ノゴッテラバイデ ホガダッキヤ ゼンブ オワッタ。

O. 強調

46. もうこれだけしかないよ。 ②モ一 コンキシカ ネーヨ。 / ③モ一 コレシカ
ネーヨ。

47. 今年こそいい年にしたい。 ①コドシダッキヤ ケッパルドー。〈今年
頑張るぞ〉 / ②コドシダバ イイ トシニ シテ。〈今年はいいい年に
したい〉 / ③コドシゴソ イイ トシニ シテ。

P. 限界

48. これだけ言っても分からないのか！ ②コンキ シャベッテモ ワガネンダナ。

49. 2千円くらいまでなら何とかなる。 ○ニセンエンク レマデダバ ナントガ
ナル。

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 ②ヒリヨー ヤレバ ヤッタ ブンキ イダ
イダ。〈肥料をやればやった分よく育つ〉

「仮定形・ば・こそ」

51. 心配すればこそ言うんだ。 ①オモッテルハンデ シャベルダデバナ。＜ハンデにプロミネンス＞／②アンヅルハンデ シャベルデバシ。＜ハンデにプロミネンス＞／③アンヅルハンデゴソ シャベルデバシ。

「こそ・仮定形」

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。 ②アイダッキャ モンクダバ シャベルバッテ ヒト イウ ゴドダッキャ ナンモ キガネ。＜あいつは文句は言うが、人の言うことは全然聞かない＞

53. 「～でこそあれ《コサレなども》」という言い方はありますか。 ○ない。

「未然形・ば・こそ」

54. 押しても引いても動かばこそ。 ①メサモ ウシロサモ ウコガネ。＜前にも後ろにも動かない＞／②オシテモ ヒイデモ ウコダ モンデ ネ。＜押しても引いても動くものではない＞／③オシテモ ヒイデモ ウコダ モンダガシテ。＜押しても引いても動くものかよ＞

「～こそ。」

55. 失礼なことを言わないでこそ。 ○ナンボ フトバ バガニ スキャー。＜ずいぶん人を馬鹿にするなあ＞

「～こそ～が」

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。 ②イマダハンデ イエガラ デネバッテ ムガシダッキャ ヨダ アルイテ アッタ。

「～ば～ほど」

57. 働けば働くほどもうかる。 ○カヒゲバ カヒゲ ホンダ ジンゴ タマル。

R. 打ち消しとの呼応

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ①ソッチョーサ キガネステモ オラダジダゲデ ハナシコ キメルニ インタ ゴドダ。／②ソッチョーニ キダ ホドノ ゴトデモ ネ。

否定との呼応

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。 ○アサマガラ イソカシシテ シルメシモ クワイネ。

否定的取り上げ

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 ①コッタラダダッキャ ナンボデモ アルネ。／②コッタ モンダノダッキャ ナンボデモ アルジャ。

全面否定

61. 誰だってそんなこと言われたら怒るよ。 ①ダイデモ ソタラダ ゴト シャベライレバ オゴルネ。／②ダイダッテ ソッタ ゴト シャベライレバ オゴルヨ。

S. 次の動作が不可能

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。 ② ジューネンマエニ
コキヨーオ ハナレタ キリ、イッカイモ モドッテネ。

(5) モダリティー的なもの

T. 不確かな気持ち

63. いつのまにやら眠ってしまった。 ① ヒロツト マニヲ ネッテ マッタ。/
② イツフ コメニヲ ネッテ マッタ。

64. 何のことか分からない。 ○ ナダガサ カンダガサ ワガネ。
推定

65. 後で遊びに行くかもしれない。 ○ ア下カラ アソブニ イダガモ シラネ。
どちらか分からない

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。 ① クルダガサ コネダガサ ヨグ
ワガネ。/② クルンダガ コネンダガ ヨグ ワガラネ。

はっきり言わない

67. どこやらへ引越したそうだ。 ① ドゴチャガ ウズッタダド。/② ドゴサガサ
ヒッコシタンダド。

U. 非難

68. お父さんたら今日も遅いのね。 ② トッチャッテバ キヨーモ オセッキャフ。

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。 ○ オヤジダッキャ ワラシヨミタ
ゴト シャベッテ。

III. まとめ

回答に現れた副助詞は以下の通りである。

(1) 添加・例示・提題をあらわすもの

モ・マデ (マンデ)・デモ・ダノ・ホド (ホンド)・ク・レ・ガ・ズ

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

バリ (バイ・バシ)・ホド (ホンド)・ナダリ・ゴソ・マデ・ズズ

(3) 限定・限界などをあらわすもの

バリ (バイ)・シカ・ゴソ・キ・ク・レ

(4) 陳述的なもの

ゴソ・ホンド・モ・ダノ・デモ・ダッテ (ダッテ)・キリ

(5) モダリティー的なもの

ガ・テバ・ダッキャ

両話者の第一の回答がともに副助詞を用いない表現によるものであったのが、計 13 の調査文 (4、5、10、26、29、32、33、42、47、51、54、55、58) に及んだ。話者①の回答が得られず、話者②の回答から記したもののうち、50、52、56 にも副助詞は現れてい

ない。4、10、26 ①、29、32、33、42、47、50、52、54、55、56、58 においては、接続助詞や調査文とは異なる文構成による表現が行われていた。5、26 ②、32 ②、33 ①、51 では、ピッチレンジ・声の強さ・音節の長さ等発音上の調整によって調査文の内容に対応する表現が行われていた。5、26、32、33 については、話者から特に音調についての説明があり、音調の担う機能が話者自身にはっきりと意識されているといえる。4 ①、36、51 については話者からの説明はなかったが、注記の箇所プロミネンスが観察された。

(まえだ りかこ 大阪大学)